参考資料３－１

県民等意見聴取結果について

Ⅰ.「新たな茨城県総合計画」策定に関する市町村意向調査

１　調査の目的

新たな茨城県総合計画（以下「県計画」という。）の策定に当たり，市町村の特色，現状と課題，将来像，県計画に対する意見・要望等について，県内全ての 44 市町村の意向を把握し，県計画の策定に反映させることを目的とする。

２　調査時期（2 月 9 日～3 月 20 日まで）

地　域	実　施　日　時
県北地域	平成 30 年 2 月 15，19 日，3 月 20 日
県央地域	平成 30 年 2 月 9 日，19 日，3 月 20 日
鹿行地域	平成 30 年 2 月 9，21 日
県南地域	平成 30 年 2 月 9，19，22 日，3 月 15，20 日
県西地域	平成 30 年 2 月 26 日，3 月 7，15，20 日

※各県民センター及び県庁会議室にて，１市町村当たり，30 分程度実施。

３　調査項目

（１）市町村の特色
（２）現状と課題，重点施策
（３）将来像
（４）広域連携・地域区分
（５）県計画策定に対する意見･要望

４　アンケート調査における主な意見

※４４市町村のうち，２０市町村以上があげたもの。（　）は市町村数

（１）政策ビジョンに基づく，今後県へ重点を置いてほしい施策

・幅広い産業人材の育成や安定した雇用環境づくり（20）
・農林水産業の振興（22）
・移住・二地域居住・UIJ ターンの推進（29）
・医師・看護師・福祉人材の確保（29）
・地域にふさわしい医療体制の構築や救急医療体制の充実（22）
・公共交通や買い物支援など生活支援サービスの維持・確保（22）
・防災体制の構築（20）
・結婚・出産・子育て支援（39）
・ICT の効果的な活用などの教育体制の充実（22）
・戦略的な情報発信や茨城ブランドなどの PR 戦略（28）
・広域交通ネットワークの構築など社会資本の整備・活用（28）

（２）県の地域づくりの将来像について

・身近に医療施設（医院や病院）があり，いつでも適切な診療が受けられる地域（28）
・電車，バスなど公共交通機関が身近にあり，道路が整備され移動しやすい地域（28）
・イメージアップが進み，定住人口や観光客が増えている地域（28）

（３）市町村の地域づくりの将来像について

・恵まれた学校環境で子どもの能力を延ばす教育が受けられる地域（29）

・子育ての悩みごとを相談でき，乳幼児の延長保育や学童保育が整備された地域（27）

５　ヒアリングでの具体的な意見・要望

（１）新しい豊かさ

・つくばエリア等を中心に県にリードしてもらいたい。

・県の支援は製造業が中心で，商業・サービス業，小規模企業への支援が弱い。

・圏央道の開通により雇用の場の安定と若者の地元定住・就職が期待できる。また，県と連携して新たな流通販売体制を構築したい。

・本県の自然環境の豊かさを考えると，県内全域で積極的な推進が必要

・専門知識を有する人材の UIJ ターンを打ち出して欲しい。

（２）新しい安心安全

・医師確保については，広域的に対処すべき課題であり，県のリーダーシップが不可欠。特に小児科，産科，脳外科，心臓外科の定着支援が必要

「茨城型地域包括ケアシステム」の構築については，喫緊の課題であり，重点的に取り組んでほしい。

・広域の路線バス等については，県の積極的な取組を推進してほしい。

・防災体制については，確実な情報伝達手段の構築，広域的な避難体制の確立など市町村の枠を超えた取組となる。

・原子力防災体制の構築は喫緊の課題であり，県には強力なリーダーシップを発揮してもらいたい。

（３）新しい「人財」育成

・地理的な要因や経済的な理由に関わらずレベルの高い特色ある教育機会を提供するべき

・ICT 教育の充実に向けて，ハード面だけでなく教員の能力・資質の向上が必要

・若者の人口流出を抑制するためには高等教育機関の誘致が重要

・結婚・出産・子育て支援は，市の最重要課題であり，県と連携した取り組みが必要

（４）新しい夢希望

・時代に即した新しい手法による情報発信については，市町村・関連団体等の連携を推進してほしい。

・鹿島港を物流拠点として需要拡大が見込まれる新興国への輸出促進を図る必要がある。

・市はものづくりの技術的な土台を有していることからニーズのマッチングを県として幅広く推進してほしい。

・那珂核融合研究所を中心とするイノベーション拠点の形成

・観光・国際観光誘客について，茨城空港の活用など県と連携して取り組んでいくことが必要なほか，アジア圏へのプロモーションに引き続き重点的に取り組んでほしい。

・地域資源の開拓や体験型観光の創設に取り組み必要がある。

・東京との近接性を活用した「通えるまちづくり」の推進

・内からの視点ではなく外からの視点を活かした地域資源の発掘

Ⅱ.「新たな茨城県総合計画」策定に関する明日の地域づくり委員との意見交換

1　調査の目的

新たな県総合計画に，県民の意見を反映させることを目的に，地域の現状や課題，将来像等について，明日の地域づくり委員あて，アンケート調査及び意見交換会を開催し意見を聴取する。

※　明日の地域づくり委員会（５つの地域ごとに開催）
　　各地域の委員４０名×５地域（計２００名）

2　アンケート

◇調査期間	平成 30 年 1 月 24 日～3 月 20 日
◇実施方法	アンケートを事前に配布し，意見交換会の際に回収。
◇回収率	１３０名／２００名　６５．０％ （60 代以上が 8 割　また，男性が 6 割）

○「住みやすさ」に関する意見

・「どちらかといえば住みやすい」が 54.6%,「とても住みやすい」の 18.5%とあわせると，73.1%が「住みやすい」と回答。

・「(今住んでいる地域に）ずっと住み続けたい」が 50.8%,「できるならば住み続けたい」の 32.3%とあわせると，83.1%が「住み続けたい」と回答。

○「満足度」に関する意見

・地域の暮らしにおいて満足度が高い項目は,「地元でとれた良質で新鮮な野菜や魚，加工品を食べることができる」（満足・やや満足で 69.2%),「安全で安心な食材を入手できる」（同 64.6%),「空き缶などの資源ごみがリサイクルされている」（同 63.1%）

・満足度が低い項目は,「電車，バスなど公共交通機関が身近にあり便利である」（不満・やや不満で 63.9%),「老後の生活に十分な保障がある」（同 48.5%),「原子力関連施設の安全対策が取られており安心できる」（同 40.8%）の順となっている。

○「地域に期待する将来像」に関する意見

・「高齢者や障がい者が安心して暮らせるまち」が 34.7%，次いで「若者や女性・高齢者が活躍するまち」が 30.6%となっている。

○もっとも力を入れて欲しい人口減少対策に関する意見

・「企業誘致や企業支援による働く場の確保」が 39.2%，次いで「保健，医療，福祉の充実」が 33.1%となった。

3　意見交換

地　域	実　施　日　時
県北地域	平成 30 年 2 月 15 日
県央地域	平成 30 年 3 月 20 日
鹿行地域	平成 30 年 2 月 21 日
県南地域	平成 30 年 2 月 22 日，3 月 15 日
県西地域	平成 30 年 1 月 24 日，3 月 7 日

※　県庁及び各県民センター会議室にて，30 分程度開催

○地域づくり委員会における主な意見

（１）新しい豊かさ

・今の若い人に「自分が住んでいるまちが好き」と，思って住み続けてもらいたいが，働く場所がない。そこが解決できれば，政策ビジョンに書いていることの実現は，あとからついてくる。教育や保健福祉などの問題解決はあとからついてくる。きちんとした正社員として働ける場所の確保が重要である。（県西地域）

（２）新しい安心安全

・茨城大学への医学部創設（県北地域）

・ＦＩＴ構想はどうなっているか（医療・福祉面で）。福島医大と筑波大の連携を進めるべきである。（県北地域）

・活力のワードがでているが，若い人たちを対象としている。高齢者は安全や安心の括りとなっているが，これからは視点を変えて，高齢者の活力（学び，ロック，テニスなど地域スポーツ）を考えてほしい（県南地域）

・福祉部門では自治会の再生が必要である。地域での子供，老人の見守りという地味なところに参加してくれないのが実情である。（県西地域）

（３）新しい「人財育成」

・次世代を担う人材育成では，地域の学校ボランティアを活用すべき。（鹿行地域）

・県北では人口減少が進み，学校の生徒数が減少している。「少人数の学校には良い先生が来ない」との話が出回る状況である。少人数の学校の良さを売り出していく必要がある（県北地域）

（４）新しい夢・希望

・新知事になり，チェンジ，チャレンジが出てきた。これはマーケティングの発想とイノベーションマインドによるものだと思う。現在の茨城は,「魅力を知られなさ過ぎ日本一」というのが認識である。広告・広報のマネジメントが必要であり，営業戦略部を創ると良いのではないか。マーケティング発想とイノベーションマインドによる研修の実施などによって，顧客感度を高めることが必要である（秋田県にはマーケティング部がある）（県北地域）。

・茨城県は北海道に次ぐ農業県であるが，ブランド力がない。例えば和牛はブランドが乱立し日本ブランドがない。そこで，県で魅力を一本化するシステムを作れないか。（鹿行地域）

・発信も大切であるが，現場に足を運んでもらって，地元の人に直接話を聞くことが重要である。（鹿行地域）

（５）総合計画全般について

・総合計画づくりには，次世代に何を残すのかという観点が必要であり，40～50 代の若い世代の人や女性の意見を積極的に取り入れてもらいたい。（県南地域）

・ビジョンには「活用」や「挑戦」などが使われ，良い言葉だとは思う。意見や提案について，個人の提案ではなく，地域づくり委員会のような地域の代表の意見を取り入れるようにしていってもらいたい（県南地域）

・総合計画のＰＤＣＡサイクルはどうなっているのか。チェックの結果まで発表してもらいたい。（県南地域）

・ビジョンは総花的である。茨城の特色を出していかないと，作っただけで終わってしまう。人口減少と財政の問題，さらには東京一極集中を打破するアイデアを作っていく必要がある（県央地域）

Ⅲ．明日の茨城づくり東京懇話会における意見について

１　目　　的

本県にゆかりのある県外在住者と知事が，県政の課題等について自由に話し合う場を設定し，本県に対する意見・提言等をいただき今後の県政運営に反映させるとともに，相互の理解と信頼を深め，豊かで住みよい茨城づくりの推進に資することを目的として開催。

２　開催日・場所　　平成３０年２月７日（水）
ホテルグランドアーク半蔵門（東京都千代田区隼町１－１）

３　出席委員数　　１８名　（総委員数　２４名）

４　意見要旨（抜粋）

Ⅰ　新しい豊かさへのチャレンジ

○持続可能な開発目標（SDGｓ）について

・政策ビジョンなどを策定する際には，パリ協定や持続可能な開発目標（SDGｓ）など，国際的な動向を踏まえる必要がある。

○中小企業がAIやIoTを活用できる環境について

・中小企業がAI，IoT化の波に取り残されないよう，県や自治体がクラウドのようなものを用意するなど，IoTの使い方，使える環境を行政側が考えていかなければならない。

○日本全体のテクノロジーの進展のため，茨城県・つくばの先端技術の発信について

・政府がソサエティ5.0というコンセプトを打ち出し，先端技術を進めて，諸問題の解決に充てていこうという動きをしている中，大学の機能の強化や研究機能の強化について，自治体がどう対応していくのかということが大きなポイントと考える。

・つくばには，研究機関が集積し，筑波大学があることから，テクノロジーの進展を受動的でなく，むしろ発信基地になっていくという視点をもってもらいたい。ベンチャーをはじめ，新しい産学官（連携）をやっていけば，企業立地№１も続くと考える。

○知的クラスターの日本的な展開について

・世界でどう勝ち抜いていくかという観点から，大学・研究機関を中心とした知的クラスター（集団）を創っていく必要がある。大企業誘致の他に，ベンチャーを育成し，新産業の創出に対する環境とファンドの整備が必要になる。

○儲ける農業とマーケティングについて

・農業産出額全国２位であり，量も大切だが，もっと儲けるために加工することも必要・マーケティングとして，「誰に対してどの素材を使うか」という視点があって良い。例えば「福来みかん」みたいに名前が可愛く若い層に受けるようなアイテムが各地にあると思う。

・加工から言うとハラールの問題がある。これからはイスラム圏との観光もあり，輸出も加工品もターゲットになる。厳しい制約もあるが，まさに高付加価値，輸出を目指した加工品をつくるには，視野に入れていく必要がある。

○シニアの知識や経験を活かした再就職について

・各企業が人材難で困っている中，シニアの過去の経験や知識を活用できる仕事に需要がある。効率的に業務を進めるうえでもシニアの力を活用するような仕組みを検討してもらいたい。

○女性活躍の推進について

・知的レベルの高い女性をネットワーク化し，在宅勤務を知的クラスター内でうまく活用していくと，AI・IoT 戦略を担う人材として活用できる。

・県の中で待機児童が最も多いのがつくば。夫婦で研究者という場合も多く，研究の継続が難しい場合があるため，子どもを育てながら経歴を積めるよう，しっかりと保育園を整備してもらいたい。つくばに行ったら安心して研究が続けられる，というようなアピールができるような環境にできれば。

Ⅱ　新しい安心・安全へのチャレンジ

○医師の地域偏在について

・筑波大以外で県内に医学部がないこと。もちろん医学部がなくても色々な形で医療はできるが，やはり誘致を進めることが必要。

・交通事故死者数が多いのは，医師数は勿論，医師の分布にも原因があると思う。医師の分布も安心安全の観点に入れてほしい。

Ⅲ　新しい人財育成へのチャレンジ

○次世代を担う人材の育成

・つくばの研究機関や筑波大あることから，つくばに中高一貫のスーパーサイエンススクールをつくっては。教える人も必ずしも文科省の資格の有無でなく，研究所や大学のメンバーが自由に出入りできるような。寮制みたいにして，全国から科学技術が好きな子どもの集まってくるような。

・日本の英会話教育は，いろいろな場面で使う英語のやり取りを全部暗記させてしまう傾向があり，うまくいってないんではないかと思う。言語に有機的な関連を持たせ，英語を使わなくても忘れないような，効率的な教育をしていく必要があるのではないか。

○結婚に係る価値観の造成

・企業を取り込んだ結婚支援で成果を挙げるためには，働き方環境の改善や多様な生き方を認めていくこと等，複眼的視点が重要。昔は社会教育の中で若者が，魅力的な働き方や生き方を学ぶ場があったが，現在は生涯学習の領域。このような考え方をどのように育てていくか。

○伝統文化の継承について

・茨城の芸能やお祭りなど文化の価値を見直して，昔のことやお祭りの歴史とかを知っている方が存命のうちに，若い人や知らない人にも伝えていけると良い。お祭り等を通じて，絆が深まれば他県へ行ったりせず，永住にもつながるし，婚活にもなると考える。

Ⅳ　新しい夢・希望へのチャレンジ

○魅力度の向上について

・県の新しい取組を期待している。茨城県内に 45 のお酒の醸造元があるということなど，細かいことも，PR していくと非常に頭に残るので，地道にやっていくと魅力度も上がると考える。

・メディアがないことは，県民がプライドを持てないこと，魅力度が低い要因の一つだと思う。メディア戦略として県域 FM などの新しいメディアの創出を考えてほしい。

・「茨城の宝 125 選」にもあるように茨城には素晴らしい場所がたくさんある。IT などを利用した方法や，北関東 3 県の知事によるメディアへのプレゼンなどにより，PR してもらいたい。

○ＴＸの常磐線への延伸

・つくばエクスプレスを延伸することで，常磐線への連結を強く推し進めてほしい。